



1号墳
 5世紀中頃に築かれた全長50mの前方後円墳。道路建設に伴う発掘調査後、前方部は削られた。石室から鍛冶具や木工具が出土する。石室そばに置かれた巨石は発掘調査で移動させた天井石。

24号墳
 6世紀前半に築かれた全長53.5mの前方後円墳。古墳のまわりに周溝と周堤が巡る。

22号墳
 新原・奴山古墳群中で最大規模を誇る全長80mの前方後円墳。古墳のまわりに周溝と周堤が巡る。墳丘に円筒埴輪が立っていた。

34～43号墳
 これらの円墳は直径15m以下の小古墳で6世紀に造られた。細長い尾根上に一列に並ぶように造られている。

12号墳
 6世紀前半に築かれた全長43mの前方後円墳。古墳の周囲に幅5m程の平坦部(基壇)をもつ。

7号墳
 5世紀前半に築かれた一辺24mの宗像地域には珍しい方墳。

30号墳
 6世紀中頃に築かれた全長54mの前方後円墳。前方部の上面は畑により削られ平らになっているが鍵穴形をしたきれいな平面形を残す。

21号墳
 5世紀前半に築かれた直径17mの円墳。墳丘上には古墳より800年後の鎌倉時代に作られた供養塔が立つ。

- 5世紀に造られた古墳
- 6世紀前半に造られた古墳
- 6世紀後半に造られた古墳
- ※数字は古墳番号

旧入り海